

られたるものにして、直接唐に對する背叛には非りしと雖、然も之が爲に兩者の間に於る從來の關係は既に斷絶し以後回鶻及び其の他の三部は、其の地理上の位置を利用して、西方諸國の貢道を絶つに至りしものなりとす、此の事件は新唐書王君奩傳には、開元十四年に於ける吐蕃の入寇の記事の後に續けられ、又舊唐書同傳には、開元十六年に於る同一事件の後に續けらるゝも、兩唐書本紀には、共に十五年閏月の事とし、舊唐書張守珪傳及び吐蕃傳にも同じく十五年の事とすれば、後者に依るを以て正しとすべし、通鑑は護輸が其の黨衆を糾合して王君奩を殺したることを以て、本紀に従ひ開元十五年閏月の事とせるが、其の前月即ち九月に於て、承宗を流し、同時に伏帝難を以て瀚海大都督と爲ししことを記せり、思ふに此の記事は正鶻を得たるものにして、當時回鶻部は王君奩に對して平かならざりしと雖、唐に對する離叛の形勢を表はせるに非れば、唐は王君奩の奏に由りて承宗を流すに至りしと雖、然も伏帝難を以て其の後を嗣がしむるに至りしは、極めて自然のことなりとす、されば舊唐書及び冊府元龜に「開元中承宗・伏帝難並繼爲酋長」と記せるは固とより正しき記事ならざる可らず、然れ共翌月には早くも護輸の黨與の反ありて、唐の軍は之を討ちたるものなれば、新唐書が伏帝難の部酋としての位置を記さざるも、亦必ずしも怪しむ可きにあらず。

此の後の事情に就きては、護輸の叛亂の記事に續きて、舊唐書迴紇傳に「玄宗命郭知運等討逐、退保烏德健山」とし、新唐書には「久之奔突厥死」と記せるのみにして、詳細の情態を知る可らず、而して又此の舊唐書の記事に就きては信ず可らざるものあり、何となれば、郭知運は新唐書の其の傳に依れば既に開元九年に死したるものにして、通鑑も其の死を同年十月とせり、されば開元十五年の此の叛亂に對して郭知運が討伐を加へたることの誤なる